

視察・研修報告書

視察・研修先	議会改革視察・登別市、石狩市、札幌市
日時	8月7日(月)～9日(水)
場所	北海道登別市、石狩市、札幌市
テーマ	議会改革およびDX化について
対応者 (講師)	辻登別市議会議長、登別市職員、石狩市職員、札幌市職員
概 要	
<p>・一日目：登別市</p> <p>○議会について 登別市は15年から20年かけて、議会改革を地道に仕組みとして整理して進め、人が変わっても未経験者でも継続できる多様性のある議会にした。 議長は第一会派ではなく、議長選挙前に候補者が所信表明を行い投票するしくみ。</p> <p>○議会改革について 端緒はIT化 車いす使用の傍聴者のために、知恵を絞って傍聴スペースを設けて議場改修。 議会図書室に傍聴者および議員のためにベビーサークルなど設置。 傍聴も乳幼児同伴可に変更。 事務局職員提案制度という提案規定を設け、委員会審議や口述書等を見直した。</p> <p>○DX化について 議会で自前のホームページ作成、議会にPC持ち込み可として、議会にモニターを設置。 議会でのPCはネット検索も可能。 グループウェアを導入して議会内の業務効率性がアップ。 ICTに不慣れな議員のために活用研修を実施。 災害、感染症、育児、介護などの特例運用でオンライン委員会が可能に変更。 議会サポーター制度の導入。市民サポーターは無償、常設で年1回以上の意見交換をする。専門的サポーターは有償、非常設で議案審査や要調査の場合に設置する。</p> <p>・二日目：石狩市</p> <p>○パソコン導入の経緯 平成27年からICT化を目的に議会改革推進特別委員会でタブレット端末導入の検討。 デモンストレーションを実施し、タブレットよりもパソコンのほうがベターとなる。 →導入コスト、使い勝手、導入のハードルを勘案。 平成28年9月パソコンを導入して、議案、資料のペーパーレス化をスタート。 平成29年9月から委員会資料についてもデータ化</p> <p>○パソコン導入効果 導入コストのみ、ランニングコスト不要。 ペーパーレス化により人件費および消耗品費約200万削減。 他方で、全職員にPDF加工ソフトライセンス料約400万計上。</p>	

○タブレット端末導入の経緯

令和2年総務省から感染症対策のためのオンライン委員会開催が可能に。

令和2年9月補正予算により導入決定。

令和3年4月全議員にタブレット貸与し試行開始。

令和3年6月議会から本格運用開始。

タブレット端末導入とともにグループウェアを導入して、統一化。

議場および委員会室等のWi-Fi整備は他部署で実施。

○タブレット端末導入効果

令和3年会議規則、委員会条例改正によりオンライン委員会実施可能に。

タブレット端末にはデータはクラウド保存、送信資料は議員個人スマホでは閲覧のみ可

議案や委員会資料などをUSBによる手渡しからタブレット端末にデータ送信で効率化。

ペーパーレス化の実現。ファックスや紙での配布からデータ送信に変更。

・三日目：札幌市

○議会改革および議会機能強化の経緯

市議会基本条例を根拠に議会機能強化・改革検討委員会を設置

→構成員は各会派幹事長、非交渉会派、無所属議員はオブザーバーで採決権なし。

○議会改革の成果

費用弁償の減額および廃止：平成16年検討委員会で協議し、翌17年減額を可決。平成19年にさらに廃止を検討し、9月27日付で費用弁償廃止。

政務活動費の手引きの策定：用途の判断基準の明確化、使用範囲の限定、合理的な按分割合による支出

議会基本条例の制定と検証：検証により政策立案、提言のほかペーパーレス化、議員相互間の討議を検討

議員定数見直し：札幌市の区間における1議員当たりの人口格差が1.581倍となり、検討、当初会派間で不一致だが、選挙前までに見直すことは一致しており、協議を重ね条例を改正。

タブレット端末導入によるペーパーレス化。

所 感

登別市議会、石狩市議会における地道で着実な改革は非常に参考になった。議会改革やDX化の是非はゼロか100かになりがちである。しかし、タブレットで最初から統一せずとも石狩市議会のようにPC導入からでもよいし、すべてをペーパーレスにせずネット回覧で十分なものからペーパーレスにしていけばいい。特に予算や決算書類は見返したり、比較したりするため併用が望ましいと感じた。そして、執行部と議会が情報共有できるようにシステムをリンクさせることで行政改革と議会改革を進めることが可能となると思われる。できることから一歩ずつ、市民のための開かれた議会を実現していきたい。

-作成者 中村 慎一郎 -